

1995年 大会記録

国際

◇ヤリギン国際大会=男子フリースタイル（1月27～29日、ロシア・クラスノヤルスク）

▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）=9位、▼52kg級 田村茂一（日大）=二失、▼57kg級 入江格（福島・平商高）=三失、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）=優勝、▼68kg級 小柴健二（新日本プロレス職）=三失、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高）=3位、▼82kg級 横山秀和（日体大助）=8位、▼90kg級 和田敏行（クリナップ）=8位、▼100kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）=二失、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）=5位

◇トゥルクァン女子国際大会=女子（1月28日、フランス・トゥルクァン）

《ジュニア・シニア》▼44kg級 吹浦智子（東京・安部学院高）=4位、▼47kg級 高城敏江（東京・安部学院高）=途中棄権、▼50kg級 小石原亜由美（京都・網野高）=4位、中本裕子（日体パンサーズ）=5位、篠村敦子（京都・網野高）=6位、▼53kg級 福田恵美（群馬・関東学園高）=2位、杉本佳子（日体大）=途中棄権、▼57kg級 黒沢智恵（畑村クラブ）、▼65kg級 浜口京子（代々木クラブ）=優勝、平田裕子（リプレ中京女大）=順位なし、▼70kg級 加藤ミエ（リプレ中京女大）=2位、中井みほ（平和台SC）=6位

《カデット》▼51kg級 篠村敦子（京都・網野高）=2位

◇キエフ国際大会=男子フリースタイル（2月2～3日、ウクライナ・キエフ）

▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）=二失、▼52kg級 田村茂一（日大）=四失、▼57kg級 入江格（福島・平商高）=四失、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）=優勝、▼68kg級 小柴健二（新日本プロレス職）=四失、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高）=2位、▼82kg級 横山秀和（日体大助）=三失、▼90kg級 和田敏行（クリナップ）=三失、▼100kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）=二失、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）=三失

◇スウェーデン・カップ=男子グレコローマン（2月11～12日、スウェーデン・マルモ）

▼48kg級 嘉戸洋（国士大助）=3位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）=二失、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）=三失、▼62kg級 林雄一（新潟県体協）=三失、▼68kg級 森巧（自衛隊）=5位、▼74kg級 片山貴光（自衛隊）=2位、▼82kg級 佐々木秀幸（香川・飯

山中教) = 二失、▼90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 二失、▼100kg 級 野々村孝 (香川・多度津工高教) = 三失、▼130kg 級 浜上稔 (福島・好間高教) = 三失

◇ニコラ・ペトロフ国際大会=男子グレコローマン (2月18~19日、ブルガリア・ソフ

ィア)

▼48kg 級 嘉戸洋 (国士大助) = 3位、▼52kg 級 内浩二 (自衛隊) = 5位、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 7位、▼62kg 級 林雄一 (新潟県体協) = 二失、▼68kg 級 森巧 (自衛隊) = 7位、▼74kg 級 片山貴光 (自衛隊) = 二失、▼82kg 級 佐々木秀幸 (香川・飯山中教) = 二失、▼90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 二失、▼100kg 級 野々村孝 (香川・多度津工高教) = 二失、▼130kg 級 浜上稔 (福島・好間高教) = 二失

◇ダン・コロフ国際大会=男子フリースタイル (3月4~5日、ブルガリア・ソフィア)

▼48kg 級 戸井田昌教 (国士館大) = 8位、▼52kg 級 笹山秀雄 (自衛隊) = 8位、▼57kg 級 入江格 (福島・平商高) = 三失、▼68kg 級 小柴健二 (新日本プロレス職) = 7位、▼74kg 級 山方政人 (日体大) = 8位、▼82kg 級 横山秀和 (日体大助) = 3位、▼90kg 級 和田敏行 (クリナップ) = 7位、▼100kg 級 浅沼俊幸 (自衛隊) = 4位、▼130kg 級 小幡弘之 (警視庁) = 4位

◇ヤシャ・ドク国際大会=男子フリースタイル (3月11~12日、トルコ・アンカラ)

▼48kg 級 戸井田昌教 (国士館大) = 6位、▼52kg 級 笹山秀雄 (自衛隊) = 棄権、▼57kg 級 入江格 (福島・平商高) = 4位、▼68kg 級 小柴健二 (新日本プロレス職) = 五失、▼74kg 級 山方政人 (日体大) = 四失、▼82kg 級 横山秀和 (日体大助) = 三失、▼90kg 級 和田敏行 (クリナップ) = 二失、▼100kg 級 浅沼俊幸 (自衛隊) = 三失、▼130kg 級 小幡弘之 (警視庁) = 5位

◇ドイツ国際大会=男子グレコローマン (3月24~26日、ドイツ・コブレンツ)

▼48kg 級 嘉戸洋 (国士大助) = 2位、▼52kg 級 内浩二 (自衛隊) = 4位、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 3位、▼68kg 級 森巧 (自衛隊) = 4位、▼74kg 級 片山貴光 (自衛隊) = 2位、▼82kg 級 佐々木秀幸 (香川・飯山中教) = 二失、▼90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 2位、▼100kg 級 野々村孝 (香川・多度津工高教) = 四失、▼130kg 級 浜上稔 (福島・好間高教) = 二失

◇アクロポリス国際大会=男子グレコローマン (3月30日~4月2日、ギリシャ・アテ

ネ)

▼48kg 級 嘉戸洋 (国士大助) = 2位、▼52kg 級 内浩二 (自衛隊) = 3位、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 4位、▼68kg 級 森巧 (自衛隊) = 5位、▼74kg 級 片山貴光 (自

衛隊) = 2位、▼82kg級 佐々木秀幸(香川・飯山中教) = 三失、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 2位、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教) = 2位、▼130kg級 浜上稔(福島・好間高教) = 三失

◇ワールドカップ=男子フリースタイル(4月7~8日、米国・チャタヌーガ)

6位(5敗)

1回戦 日本● [1-9] ○ロシア

2回戦 日本● [0-10] ○イラン

3回戦 日本● [2-8] ○カナダ

4回戦 日本● [2-8] ○米国

5回戦 日本● [4-6] ○トルコ

《個人順位》▼48kg級 戸井田昌教(国士舘大) = 4位、▼52kg級 佐藤公一(日体大助) = 5位、▼57kg級 入江格(福島・平商高教) = 5位、▼62kg級 和田貴広(国士舘大助) = 6位、▼68kg級 小柴健二(新日本プロレス職) = 2位、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高) = 6位、▼82kg級 横山秀和(日体大助) = 6位、▼90kg級 和田敏行(クリナップ) = 6位、▼100kg級 浅沼俊幸(自衛隊) = 6位、▼130kg級 滝口徹(国士舘大) = 6位

◇ナガテヌリ・カップ=男子フリースタイル(4月26~28日、イラン・マザンダラン)

▼46kg級 丸山康広(茨城・土浦日大高) = 4位、▼50kg級 小林邦広(山梨・峡北) = 二失、▼54kg級 岩口憲一郎(富山・富山一高) = 6位、▼58kg級 平井満生(山梨・峡北高) = 6位、▼63kg級 大石幸史(兵庫・神戸に西高) = 三失、▼68kg級 浜崎哲治(島根・隠岐島前高) = 三失、▼74kg級 中島亮(東京・京北高) = 三失、▼81kg級 東森淳次(岡山・倉敷高) = 一棄、▼88kg級 佐藤丈治(東京・京北) = 2位、▼115kg級 篠田雅史(神奈川・向上) = 二失

◇コンコード国際大会=男子グレコローマン(5月27~28日、米国・コンコード)

▼52kg級 井口撰(自衛隊) = 6位、▼57kg級 桜井正人(自衛隊) = 8位、▼68kg級 佐々木哲(自衛隊) = 8位、▼90kg級 木下英規(自衛隊) = 二失

◇ドイツ女子国際大会(6月17~18日、ドイツ・ドルマーゲン)

《シニア》▼44kg級 吉村祥子(スポーツ東急) = 優勝、▼47kg級 上林美穂(東洋大) = 優勝、▼50kg級 遠藤美子(東洋大職) = 優勝、▼53kg級 木村こず恵(東洋大) = 6位、▼57kg級 清水真理子(東洋大) = 2位、▼61kg級 宮崎美樹子(住友海上火災) = 4位、▼65kg級 浦野弥生(京樽) = 優勝

《ユース》▼65kg級 浜口京子（代々木クラブ）＝優勝

◇アジア選手権（6月27日～7月3日、フィリピン・マニラ）

《男子フリースタイル》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）＝2位、▼52kg級 佐藤公一（日体大助）＝10位、▼57kg級 阿部三子郎（ペンシルベニア州立大）＝優勝、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）＝3位、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）＝3位、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）＝6位、▼82kg級 横山秀和（日体大助）＝7位、▼90kg級 川合達夫（日体大）＝2位、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）＝4位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝4位

《男子グレコローマン》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）＝棄権、▼52kg級 内浩二（自衛隊）＝棄権、▼57kg級 花原大介（警視庁）＝2位、▼62kg級 菅生洋樹（日体大）＝6位、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝2位、▼74kg級 片山貴光（自衛隊）＝3位、▼82kg級 渡部秀隆（福島自衛隊）＝5位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝4位、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）＝4位、▼130kg級 浜上稔（福島・好間高教）＝3位

◇カナダカップ＝男子フリースタイル（カナダ・バーナビー）

▼48kg級 田岡師範（山梨学院大）＝5位、▼52kg級 田村茂一（日大）＝優勝、勝目力也（山梨学院大）＝3位、▼57kg級 木沢美幸（東洋大）＝3位、渡部博文（山梨学院大）＝三失、▼62kg級 杉田健吾（早大）＝4位、▼68kg級 天谷満博（早大）＝優勝、斎藤柔（日大）＝三失、▼74kg級 横山武典（国士舘大）＝6位、▼82kg級 山下哲生（専大）＝二失、▼90kg級 鴻巣晶俊（山梨学院大）＝6位、▼100kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）＝4位、▼130kg級 滝口徹（国士舘大）＝5位

◇世界カデット選手権（7月21～31日、ハンガリー・ブダペスト）

《男子フリースタイル》▼40kg級 松永共広（静岡・焼津中）＝7位、▼43kg級 藤本健太（大阪・吹田五中）＝二失、▼47kg級 山口徹馬（大阪・摂津四中）＝棄権、▼51kg級 足立竜一（愛知・尾西三中）＝四失、▼55kg級 藤本貴生（大阪・箕面四中）＝三失、▼60kg級 黒田清志（三重・一志中）＝三失、▼65kg級 仙波勝敏（愛媛・久米中）＝二失、▼70kg級 小幡邦彦（山口・柳井中）＝三失、▼76kg級 後藤尚啓（山形・山形六中）＝二失、▼83kg級 吉田栄利（三重・一志中）＝三失、▼95kg級 伊藤知己（千葉・野田一中）＝二失

《男子グレコローマン》▼40kg級 大橋弘典（吹田市民教室）＝二失、▼43kg級＝出場なし（出場予定選手が年齢制限に違反し不出場）、▼47kg級 水口貴之（マイスポーツ）

=棄権、▼51kg級 倉本大地（広島・広島電機大付高）=二失、▼55kg級 吉真恒治（マ
イスポーツ）=二失、▼60kg級 小野田純（京都・立命館宇治高）=三失、▼65kg級 西
岡光人（大阪・大阪市立高）=二失、▼70kg級 高塚慎吾（大阪・吹田高）=二失、▼76kg
級 中沢孝哉（長野・北佐久農高）=二失、▼83kg級 鈴木忍（長野・北佐久農高）=二
失、▼95kg級 坂本潤一（群馬・館林商工高）=二失

◇世界選手権=男子フリースタイル（8月10～13日、米国・アトランタ）

▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）=6位、▼52kg級 佐藤公一（日体大助）=三失、
▼57kg級 阿部三子郎（ペンシルベニア州立大）=一棄、▼62kg級 和田貴広（国士舘大
助）=2位、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）=四失、▼74kg級 太田拓弥（茨城・
霞ヶ浦高教）=7位、▼82kg級 横山秀和（日体大助）=五失、▼90kg級 川合達夫（日
体大）=5位、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）=三失、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）
=三失

◇世界エスポアール選手権（7月4～14日、イラン・テヘラン）

《男子フリースタイル》▼48kg級 長尾勇氣（日体大）=5位、▼52kg級 南太士郎（日
体大）=二失、▼57kg級 増田荘史（日体大）=三失、▼62kg級 山口純（日体大）=6
位、▼68kg級 織山昭仁（日体大）=8位、▼74kg級 中村征司（山梨学院大）=二失、
▼82kg級 青崎剛（国士舘大）=三失、▼90kg級 小菅裕司（日体大）=6位、▼100kg
級 熊田良一（国士舘大）=二失、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）=5位

《男子グレコローマン》▼48kg級 玉川正人（自衛隊）=二失、▼52kg級 豊田雅俊（拓
大）=三失、▼57kg級 小林武史（日体大）=二失、▼62kg級 葭田隆夫（福岡大）=三
失、▼68kg級 倉本忠（日体大）=三失、▼74kg級 湯田善彦（自衛隊）=三失、▼82kg
級 伊藤光伸（山梨学院大）=三失、▼90kg級 矢野倍達（専大）=二失、▼100kg級 多
田尾秀樹（日体大）=二失、▼130kg級 早坂昌記（東洋大）=二失

◇世界選手権=女子（9月10～11日、ロシア・モスクワ）

▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）=優勝、▼47kg級 山本美憂（日体パンサーズ）
=優勝、▼50kg級 遠藤美子（東洋大職）=3位、▼53kg級 木村こず恵（東洋大倶楽部）
=2位、▼57kg級 清水真理子（東洋大）=6位、▼61kg級 宮崎未樹子（住友海上火災）
=9位、▼65kg級 浦野弥生（京樽）=優勝、▼70kg級 浜口京子（代々木クラブ）=13
位、▼75kg級 船越光子（代々木クラブ）=2位

◇フィンランド・オープン=男子グレコローマン（9月2～3日、フィンランド・ツル

ク）

▼48kg級 森下浩（和歌山ク）＝2位、▼52kg級 井口撰（自衛隊）＝三失、▼57kg級 藤本雅志（徳島県協会）＝3位、▼62kg級 桜井正人（自衛隊）＝5位、▼68kg級 吉本収（神奈川県協会）＝二失、▼74kg級 木村好男（警視庁ク）＝四失、▼82kg級 佐々木秀幸（香川ク）＝二失、▼90kg級 木下英規（自衛隊）＝6位、▼100kg級 川島一則（クリナップ）＝一棄、▼130kg級 浜上稔（福島県協会）＝3位

◇アジア・オセアニア選手権＝男子フリースタイル（9月20～22日、）

▼48kg級 坂村智紀（小又設計）＝優勝、▼52kg級 山口英雄（カナセ）＝2位、▼57kg級＝出場なし、▼62kg級 市口勇志（日大大学院）＝2位、▼68kg級 桜岡泰人（日大）＝2位、▼74kg級 新井正道（栃木・足利工高教）＝優勝、▼82kg級 茂木房士（太田市教委）＝3位、▼90kg級 太田浩史（青山学院大職）＝2位、▼100kg級 中西久司（東京・代々木高教）＝2位、▼130kg級＝出場なし

◇世界選手権＝男子グレコローマン（10月12～15日、チェコ・プラハ）

▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）＝2位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）＝三失、▼57kg級 花原大介（警視庁）＝四失、▼62kg級 西口茂樹（拓大職）＝二失、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝三失、▼74kg級 片山貴光（自衛隊）＝三失、▼82kg級 渡部秀隆（福島自衛隊）＝二失、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝二失、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）＝三失、▼130kg級 坂下昇（専大）＝二失

◇サンキスト・カップ＝男子グレコローマン（11月4～5日、米国・テンペ）

▼48kg級 火縄公男（自衛隊）＝二失、▼52kg級 清水一成（山形ク）＝三失、▼57kg級 石嶋勇次（総合警備保障）＝五失、阿部三子郎（ペンシルベニア州立大）＝六失、▼62kg級 岩下充昭（警視庁ク）＝四失、坪井勇（福島・四倉高教）＝五失、▼68kg級 小柴健二（新日本プロレス職）＝四失、▼74kg級 山方政人（総合警備保障）＝四失、▼82kg級 角崎朋博（山形ク）＝二失、▼90kg級 中西久司（神奈川県協会）＝三失、木内樹（宮越工芸）＝三失、▼130kg級 梅田誠幸（アイシン精機）＝6位

国内

◇全国高校選抜大会（3月27～29日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年ぶり7度目）、[2] 秋田・秋田商、[3] 岐阜・岐阜工、群馬・関東学園

《個人戦優勝者》▼46kg級 上林浩二（岐阜・岐阜工）、▼50kg級 大泉エイロン（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 中川洋（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 上田将勝（京都・南京都）、

▼63kg 級 吉田征樹（茨城・土浦日大）、▼68kg 級 大橋理秀（大阪・吹田）、▼74kg 級 柴田司（秋田・秋田商）、▼115kg 級 長島康弘（群馬・館林）

◇世界選手権代表選考会予選会（4月8～9日、東京・駒沢体育館）

※出場資格のない選手の予選会で、各階級とも上位3選手が出場資格獲得（成績省略）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（4月14～16日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子エスポアール・フリースタイル優勝者》▼48kg 級 長尾勇氣（日体大）、▼52kg 級 南太士郎（日体大）、▼57kg 級 増田荘史（日体大）、▼62kg 級 山口純（日体大）、▼68kg 級 織山昭仁（日体大）、▼74kg 級 中村征司（山梨学院大）、▼82kg 級 青崎剛（国士舘大）、▼90kg 級 小菅裕司（日体大）、▼100kg 級 熊田良一（国士舘大）、▼130kg 級 吉田清太郎（国士舘大）

《男子エスポアール・グレコローマン優勝者》▼48kg 級 玉川正人（自衛隊）、▼52kg 級 豊田雅俊（拓大）、▼57kg 級 小林武史（日体大）、▼62kg 級 葭田隆夫（福岡大）、▼68kg 級 倉本忠（日体大）、▼74kg 級 湯田善彦（自衛隊）、▼82kg 級 伊藤光伸（山梨学院大）、▼90kg 級 矢野倍達（専大）、▼100kg 級 多田尾秀樹（日体大）、▼130kg 級 早坂昌記（東洋大）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼46kg 級 松橋弘幸（青森・光星学院高）、▼50kg 級 上林浩二（岐阜・岐阜工高）、▼54kg 級 北川裕基（茨城・霞ヶ浦高）、▼58kg 級 栗尾直樹（茨城・霞ヶ浦高）、▼63kg 級 吉田征樹（茨城・土浦日大高）、▼68kg 級 小磯孝章（茨城・霞ヶ浦高）、▼74kg 級 大橋理秀（大阪・吹田高）、▼81kg 級 高田浩也（茨城・土浦日大高）、▼88kg 級 佐藤丈治（東京・京北高）、▼115kg 級 鈴木克彰（東京・京北高）

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼46kg 級 小谷拵継（京都・網野高）、▼50kg 級 村田知也（三重・松阪工高）、▼54kg 級 岩口憲一郎（富山・富山一高）、▼58kg 級 隈田佳孝（専大）、▼63kg 級 飯室雅規（滋賀・日野高）、▼68kg 級 大井将憲（拓大）、▼74kg 級 伴戸宏行（奈良・添上高）、▼81kg 級 藪内人士（滋賀・近江高）、▼88kg 級 長島康弘（群馬・館林）、▼115kg 級 加藤昭範（群馬・関東学園高）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼40kg 級 谷元浩司（吹田市民教室）、▼43kg 級 松本良（群馬・関東学園大付高）、▼47kg 級 吉沢克洋（長野・北佐久農高）、▼51kg 級 谷口勝信（一志ジュニア）、▼55kg 級 森岡寛至（大阪・近大付高）、▼60kg 級 小幡清美（茨城・霞ヶ浦高）、▼65kg 級 磯辺隼人（神奈川・日大藤沢高）、▼70kg 級 金

子亮平（山口・鴻城高）、▼76kg級 藤田尚志（茨城・霞ヶ浦高）、▼83kg級 吉田栄利（一志ジュニア教室）、▼95kg級 渡辺竜太（新潟県協会）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼40kg級 大橋弘典（吹田市民教室）、▼43kg級 古瀬幸朗（マイスポーツ）、▼47kg級 水口貴之（マイスポーツ）、▼51kg級 倉本大地（広島・広島電機大付高）、▼55kg級 吉真恒治（マイスポーツ）、▼60kg級 小野田純（京都・立命館宇治高）、▼65kg級 西岡光人（大阪・大阪市立高）、▼70kg級 高塚慎吾（大阪・吹田高）、▼76kg級 中沢孝哉（長野・北佐久農高）、▼83kg級 鈴木忍（長野・北佐久農高）、▼95kg級 坂本潤一（群馬・館林商工高）

《女子優勝者》▼40kg級 吉田沙保里（三重・一志ジュニア）、▼44kg級 中林教子（東京・安部学院高）、▼48kg級 待谷ももこ（京都・網野高）、▼52kg級 小石原由美（京都・網野高）、▼56kg級 福田恵美（群馬・関東学園高）、▼60kg級 鳥海智恵子（東京・安部学院高）、▼65kg級 浜口京子（代々木クラブ）、▼70kg級 村岡厚子（東京・安部学院高）

◇全日本女子選手権（4月23日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）、▼47kg級 山本美憂（日体パンサーズ）、▼50kg級 遠藤美子（東洋大職）、▼53kg級 木村こず恵（東洋大）、▼57kg級 清水真理子（東洋大）、▼61kg級 宮崎未樹子（住友海上火災）、▼65kg級 浦野弥生（京樽）、▼70kg級 斉藤紀江（茨城・土浦日大高）、▼75kg級 船越光子（代々木クラブ）、▼75kg以上級＝出場なし

◇東日本学生リーグ戦（5月16・17・25・27日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（17年連続19度目）、[2] 日大、[3] 国士大、[4] 山梨学院大、[5] 東洋大、[6] 専大、[7] 早大、[8] 大東大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月27～28日、大阪・大阪府立体育会館第2競技場）

《順位》[1] 徳山大（2季ぶり9度目）、[2] 南九州大、[3] 近大、[4] 桃山学院大、[5] 同志社大、[6] 福岡大

◇世界選手権代表選考会（6月1～2日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 佐藤公一（日体大助）、▼57kg級 阿部三子郎（ペンシルベニア州立大）、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼82kg級 横山秀和（日体大助）、▼90kg級 川合達夫（日体大）、▼100kg

級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）、▼52kg級 内浩二（自衛隊）、▼57kg級 花原大介（警視庁）、▼62kg級 西口茂樹（拓大職）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg級 片山貴光（自衛隊）、▼82kg級 渡部秀隆（福島自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）、▼130kg級 浜上稔（福島・好間高教）

◇全国中学生選手権（6月3～4日、茨城・茨城県立スポーツセンター）

▼35kg級 高橋智人（千葉・福田）、▼40kg級 松永共広（静岡・焼津）、▼43kg級 藤本健太（大阪・吹田五）、▼47kg級 山口徹馬（大阪・摂津四）、▼51kg級 足立竜一（愛知・尾西三）、▼55kg級 藤本貴生（大阪・箕面四）、▼60kg級 黒田清志（三重・一志）、▼65kg級 仙波勝敏（愛媛・久米）、▼70kg級 小幡邦彦（山口・柳井）、▼76kg級 後藤尚啓（山形・山形六）、▼83kg級 吉田栄利（三重・一志）、▼95kg級 伊藤知己（千葉・野田一）

◇全日本社会人選手権（6月10～11日、広島・大崎町中野小、広島商船高専）

《団体戦優勝チーム》▼実業団 総合警備保障、▼クラブ 警視庁クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 火縄公男（自衛隊）、▼52kg級 清水一成（山形ク）、▼57kg級 石嶋勇次（総合警備保障）、▼62kg級 岩下充昭（警視庁ク）、▼68kg級 吉本収（神奈川県協会）、▼74kg級 山方政人（総合警備保障）、▼82kg級 角崎朋博（山形ク）、▼90kg級 中西久司（神奈川県協会）、▼100kg級 木内樹（宮越工芸）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁ク）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 森下浩（和歌山ク）、▼52kg級 井口撰（自衛隊）、▼57kg級 藤本雅志（徳島県協会）、▼62kg級 桜井正人（自衛隊）、▼68kg級 吉本収（神奈川県協会）、▼74kg級 木村好男（警視庁ク）、▼82kg級 佐々木秀幸（香川ク）、▼90kg級 木下英規（自衛隊）、▼100kg級 川島一則（クリナップ）、▼130kg級 浜上稔（福島県協会）

◇東日本学生春季新人戦（6月14～17日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小笠原寛樹（中大）、▼52kg級 榎沢智治（日大）、▼57kg級 川本久志（国士舘大）、▼62kg級 宮田和幸（日大）、▼68kg級 伊東克佳（日大）、▼74kg級 小林秀樹（東洋大）、▼82kg級 奥沢純（東洋大）、▼90kg級 今村雄介（日体大）、▼100kg級 長倉寛充（山梨学院大）、▼130kg級 吉田清太郎（国

士館大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 中尾新二(山梨学院大)、▼52kg級 安原隆(国士館大)、▼57kg級 谷隆仁(山梨学院大)、▼62kg級 小林武史(日体大)、▼68kg級 渡辺庸浩(青山学院大)、▼74kg級 大森篤志(日大)、▼82kg級 伊藤光伸(山梨学院大)、▼90kg級 今村雄介(日体大)、▼100kg級 矢野倍達(専大)、▼130kg級 光岡貴洋(日体大)

◇西日本学生新人戦(6月24~25日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 成毛利博(近大)、▼52kg級 川口亮(近大)、▼57kg級 森浩也(福岡大)、▼62kg級 葭田隆夫(福岡大)、▼68kg級 加地勇亮(同志社大)、▼74kg級 上川勝一(福岡大)、▼82kg級 谷口周平(徳山大)、▼90kg級 平松大樹(徳山大)、▼130kg級 岩崎智郁(徳山大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 成毛利博(近大)、▼52kg級 川口亮(近大)、▼57kg級 宮本幸二(福岡大)、▼62kg級 葭田隆夫(福岡大)、▼68kg級 加地勇亮(同志社大)、▼74kg級 松本宏樹(徳山大)、▼82kg級 仙川知博(桃山学院大)、▼90kg級 平松大樹(徳山大)、▼130kg級 岩崎智郁(徳山大)

◇インターハイ(8月2~5日、鳥取・赤碕町農業トレーニングセンター)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(6年連続9度目)、[2] 福岡・三井、[3] 群馬・関東学園、岐阜・岐阜工

《個人戦優勝者》▼46kg級 小竹宏明(鳥取・倉吉工)、▼50kg級 大泉エイロン(茨城・霞ヶ浦)、▼54kg級 野口勝(鹿児島・鹿屋中央)、▼58kg級 栗尾直樹(茨城・霞ヶ浦)、▼63kg級 今村吉亜(群馬・関東学園)、▼68kg級 大原春基(秋田・秋田商)、▼74kg級 大橋理秀(大阪・吹田)、▼115kg級 長島康弘(群馬・館林)

◇全国高校生グレコローマン選手権(8月17~19日、栃木・足利市民体育館)

《優勝者》▼46kg級 吉田征史郎(茨城・霞ヶ浦)、▼50kg級 仮屋崇(茨城・霞ヶ浦)、▼54kg級 中川洋(茨城・霞ヶ浦)、▼58kg級 栗尾直樹(茨城・霞ヶ浦)、▼63kg級 平井満生(山梨・峡北)、▼68kg級 卯月秀人(群馬・館林)、▼74kg級 大橋理秀(大阪・吹田)、▼81kg級 藪内人士(滋賀・近江)、▼87kg級 長島廉(群馬・館林)、▼115kg級 塚田良(長野・上田西)

◇第1回全国高校女子選手権(8月20日、京都・網野町体育センター)

《優勝者》▼40kg級 中島省子（茨城・石岡一）、▼44kg級 織田智絵（京都・網野）、▼48kg級 待谷ももこ（京都・網野）、▼52kg級 篠村敦子（京都・網野）、▼56kg級 福田恵美（群馬・関東学園）、▼60kg級 鈴木亜里（東京・代々木ク）、▼65kg級 室井美貴（福島・田島）、▼75kg級＝出場なし

◇第1回全国女子中学選手権（8月20日、京都・網野町体育センター）

《優勝者》▼40kg級 松下昌子（茨城・愛宕中）、▼44kg級 吉田沙保里（三重・一志ジュニア）、▼48kg級 井上夕起子（兵庫・育英ク）、▼52kg級 畑村恵（群馬・畑村ク）、▼56kg級 正田絢子（大阪・吹田市民教室）、▼60kg級 本田麻美（茨城・愛宕中）、▼65kg級 直原綾（大阪・寝屋川エンジョイ）

◇全日本学生選手権（8月23～26日、静岡・三島市立体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 田村茂一（日大）、▼57kg級 横瀬二郎（国士舘大）、▼62kg級 谷山祐治（日体大）、▼68kg級 織山昭仁（日体大）、▼74kg級 木村洋介（専大）、▼82kg級 川合達夫（日体大）、▼90kg級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg級 小菅裕司（日体大）、▼130kg級 滝口徹（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 勝目力也（山梨学院大）、▼57kg級 村上和隆（日体大）、▼62kg級 菅生洋樹（日体大）、▼68kg級 大西一也（山梨学院大）、▼74kg級 宮本浩次（日体大）、▼82kg級 鳥谷正樹（日大）、▼90kg級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）

◇全日本学生王座決定戦（9月22～23日、東京・駒沢体育館）＝団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大（6年連続18度目）、[2] 日大、[3] 国士舘大

◇西日本学生選手権（9月29日～10月1日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 大丸智（徳山大）、▼57kg級 酒井徹（福岡大）、▼62kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼68kg級 城嶋匡峰（福岡大）、▼74kg級 土田知路（福岡大）、▼82kg級 山口浩（福岡大）、▼90kg級 糟谷智也（徳山大）、▼130kg級 三好誠（京都産業大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 山田靖治（徳山大）、▼57kg級 橋本晃行（徳山大）、▼62kg級 葭田隆夫（福岡大）、▼68kg級 城嶋匡峰（福岡大）、▼74kg級 小林寛和（徳山大）、▼82kg級 水野輝基（徳山大）、▼90kg

級 井田敬治（徳山大）、▼130kg級 岩崎智郁（徳山大）

◇全日本大学グレコローマン選手権（10月6～7日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 豊田雅俊（拓大）、▼57kg級 小林武史（日体大）、▼62kg級 野名秀明（国士舘大）、▼68kg級 永田克彦（日体大）、▼74kg級 宮本浩次（日体大）、▼82kg級 三原大典（日体大）、▼90kg級 馬淵賢司（日体大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（7年連続7度目）、[2] 国士舘大、[3] 山梨学院大

◇国民体育大会（10月15～18日、福島・田島中、田島小）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（茨城・国士大）、▼52kg級 南大士郎（神奈川・日体大）、▼57kg級 石嶋勇次（山梨・総合警備保障）、▼62kg級 坪井勇（福島・四倉高教）、▼68kg級 勝龍三郎（山梨・総合警備保障）、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼82kg級 角崎朋博（山形・東根工高教）、▼90kg級 川合達夫（群馬・日体大）、▼100kg級 藤田和之（東京・新日本プロレス職）、▼130kg級 小幡弘之（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（三重・日体大）、▼52kg級 中森昭平（広島・総合体育館）、▼57kg級 西見健吉（埼玉・自衛隊）、▼62kg級 林雄一（新潟・豊栄高教）、▼68kg級 木村好男（東京・警視庁）、▼74kg級 植村洋二（三重・日体大）、▼82kg級 小林希（群馬・館林高教）、▼90kg級 岩淵利則（東京・警視庁）、▼100kg級 野々村孝（香川・多度津工高教）、▼130kg級 浜上稔（福島・好間高教）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 松橋弘幸（青森・光星学院）、▼50kg級 大泉瑛（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg級 平井進吾（長野・上田西）、▼58kg級 栗尾直樹（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 工藤祐士（岡山・倉敷）、▼68kg級 卯月秀人（群馬・館林）、▼74kg級 大橋理秀（大阪・吹田）、▼81kg級 高田浩也（茨城・土浦日大）、▼88kg級 長島康弘（群馬・館林）、▼115kg級 鈴木克彰（東京・京北）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 裕英博（大阪・近大付）、▼50kg級 村田知也（三重・松阪工）、▼54kg級 中川洋（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 平井満生（山梨・峡北）、▼63kg級 水谷司（三重・員弁）、▼68kg級 小磯孝章（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 伴戸宏行（奈良・添上）、▼81kg級 松本真吾（愛媛・津島）、▼88kg級 中西宣文（滋賀・日野）、▼115kg級 加藤昭範（群馬・関東学園）

◇全日本選手権予選会（11月2～3日、東京・駒沢体育館）

※出場資格のない選手の予選会で、各階級とも上位3選手が出場資格獲得（成績省略）

◇全日本大学選手権（11月16～17日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 草野孝（山梨学院大）、▼57kg級 横瀬二郎（国士舘大）、▼62kg級 佐藤将章（国士舘大）、▼68kg級 天谷満博（早大）、▼74kg級 柴田寛（東農大）、▼82kg級 川合達夫（日体大）、▼90kg級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg級 阿賀嶺（国士舘大）、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 国士舘大（4年ぶり4度目）、[2] 日大、[3] 日体大

◇東日本学生秋季新人戦（11月25～27日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 水上達志（日大）、▼52kg級 森田武士（日大）、▼57kg級 鎌田卓也（東農大）、▼62kg級 佐藤幸太郎（日体大）、▼68kg級 本名栄仁（日体大）、▼74kg級 伊東克佳（日大）、▼82kg級 河崎義範（日大）、▼90kg級 土居克也（日体大）、▼100kg級 今村雄介（日体大）、▼130kg級 滝沢慎（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 内海秀晃（拓大）、▼52kg級 中尾新二（山梨学院大）、▼57kg級 吉田誠治（国士舘大）、▼62kg級 杉山卓（青山学院大）、▼68kg級 倉本忠（日体大）、▼74kg級 永井敬誠（国士舘大）、▼82kg級 奥沢純（東洋大）、▼90kg級 伊藤光伸（山梨学院大）、▼100kg級 草間正人（東洋大）、▼130kg級 吉田清太郎（国士舘大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月25～26日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 徳山大（2季連続10度目）、[2] 近大、[3] 南九州大、[4] 同志社大、[5] 桃山学院大、[6] 天理大

◇全日本女子オープン選手権（11月26日、京都・網野町体育センター）

《優勝者》▼44kg級 小池佐知枝（東洋大）、▼47kg級 足立美穂（東洋大）、▼50kg級 遠藤美子（東洋大職）、▼53kg級 栄涼子（リプレ中京女大）、▼57kg級 清水真理子（東洋大）、▼61kg級 宮崎未樹子（住友海上火災保険）、▼65kg級 浦野弥生（京樽）、▼70kg級 住谷礼子（茨城・土浦日大高）、▼75kg級 鈴木美希（茗荷谷ク）、▼75kg以上級＝出場なし

◇全国社会人オープン選手権（12月2～3日、東洋大）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 火縄公男（自衛隊）、▼52kg級 山口英雄（ナ

ガセ)、▼57kg級 中野秀紀(千葉県協会)、▼62kg級 中石義洋(宮崎県協会)、▼68kg級 大木恵一(千葉県協会)、▼74kg級 広野武宏(クリナップ)、▼82kg級 木川秀隆(国際証券)、▼90kg級 野口篤史(栄魂クラブ)、▼100kg級 矢ヶ崎秀樹(国際建設)、▼130kg級 十川健二(宮崎県協会)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 吉川直樹(静岡クラブ)、▼52kg級 井口撰(自衛隊)、▼57kg級 西島隆(警視庁)、▼62kg級 坂上桂一(群馬・館林九小教)、▼68kg級 宮部城二(自衛隊)、▼74kg級 今村浩之(クリナップ)、▼82kg級 宮沢誠(静岡クラブ)、▼90kg級 渡部秀隆(福島・自衛隊)、▼100kg級 矢ヶ崎秀樹(国際建設)、▼130kg級 十川健二(宮崎県協会)

◇全日本選手権(12月21~23日、東京・代々木競技場第2体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐伯豊(クリナップ)、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊)、▼57kg級 阿部三子郎(ペンシルベニア州立大)、▼62kg級 和田貴広(国士舘大助)、▼68kg級 勝龍三郎(総合警備保障)、▼74kg級 太田拓弥(茨城・霞ヶ浦高教)、▼82kg級 横山秀和(日体大助)、▼90kg級 川合達夫(日体大)、▼100kg級 藤田和之(新日本プロレス職)、▼130kg級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元(日体大)、▼52kg級 内浩二(自衛隊)、▼57kg級 西見健吉(自衛隊)、▼62kg級 西口茂樹(拓大職)、▼68kg級 三宅靖志(東海商船)、▼74kg級 片山貴光(自衛隊)、▼82kg級 杉浦貴(自衛隊)、▼90kg級 森山泰年(自衛隊)、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教)、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社)

◇女子東西対抗戦(12月23日、東京・代々木競技場第2体育館)

東軍○ [3-2] ●西軍